

湯ノ沢 (作図: 利)

で下る。右岸に大きな石がある所になると左岸から湯がわきでている。湯を引くパイプなども見える。その先七段程の砂防ダムを越えるとすぐ新高湯に着いた。

(タイム)

(記: 利)

四〇 下降開始一二〇—大岩一三〇—新高湯一三〇

◆天気(晴)  
松川は最上川の源流帯を構成する大きな支流の一つである。地図を見るといくつもの滝の記号があつて大いに

## 松川

一九七六年八月二十二日



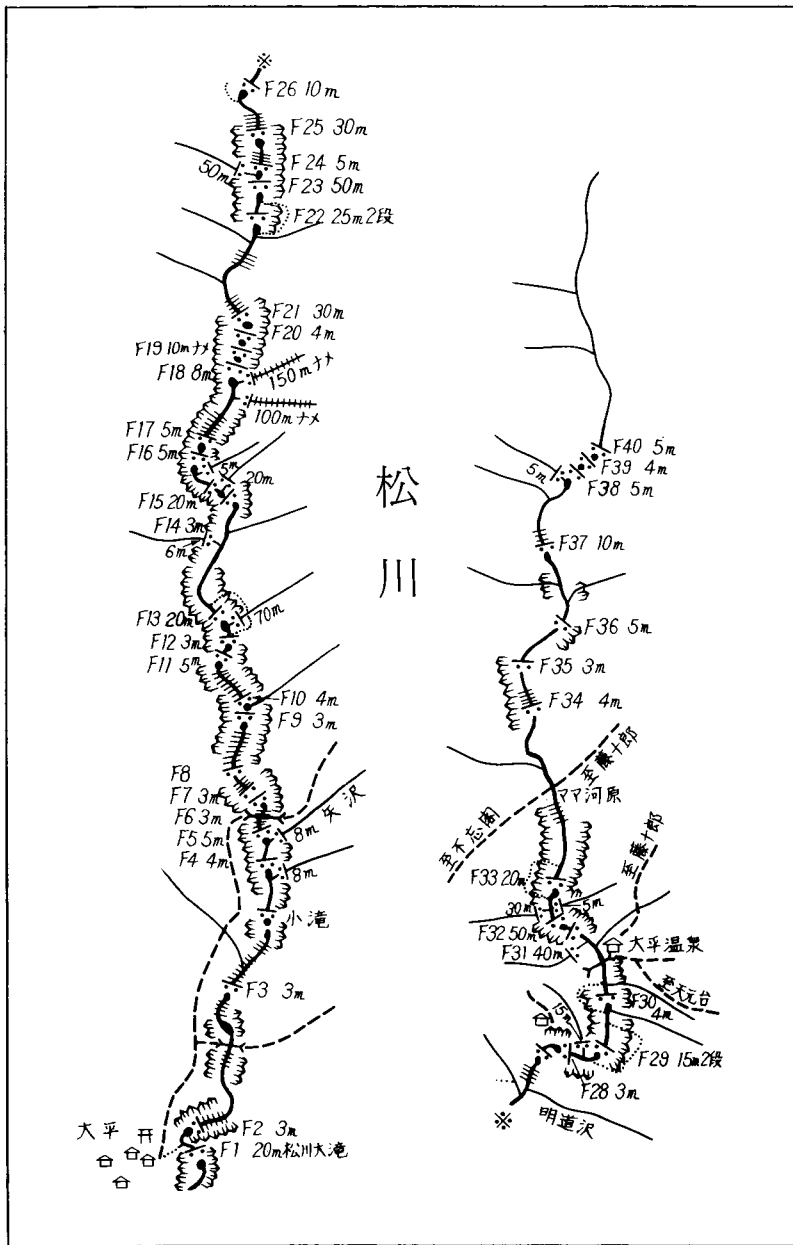
松川・F  
15



松川・F  
23



ゆったりとしたナメを行く（松川）



松川，間々川（作図：

興味をそそられる。

大平部落に車を置いて遡行開始。矢沢出合までは所々にナメと小さな瀧をまじえた割合と明るい沢筋がつづく。矢沢出合をすぎるときれぎれながら側壁があらわれるとともに見事なナメが展開するようになる。途中小きな滝がはさまっているが、たつぷり四〇分間一枚岩の上を、それも廊下になったり明るくなったりの変化あるナメ歩きである。

長いナメが終わると今度は滝である。行く手に大きな滝と深い釜が立ちはだかっている。もろい左岸を登り小沢にかかる七〇呎ほどの滝の中段を横切つて捲く。この捲きはなかなか苦しい。すぐまた二〇呎ほどの滝である。左岸の小沢の滝を登つて上に出る。

沢が明るくなった所で左岸を見上げると二本の小沢が見事なナメ滝となつて合流している。一〇〇呎以上のもの高さがあるうか、無数の白糸をかけたようになって流れ落ちている。本流はここに三〇呎ほどの滝をかけるが何なく越える。

次にあらわれる一五呎と一〇呎の二段の滝を左岸から捲くと、いよいよ松川最大の難所F23五〇呎にかかる。

右岸を強引に登るがボロボロの岩と落石に肝を冷やす。

この滝では三年前に一人の登山者が転落死するという事故があった。次にあらわれた三〇呎の滝は左岸を快適に直登。

沢が平凡になつてやがて明道沢出合につく。明道沢も本流もみかけは透明なのに、二つの沢の水がまざると濁りが生じて魚も住まない。特に明道沢の水は酸性が強く、とても飲めたものではない。本流の方は水清くイワナの姿も見られるようになる。

小滝を二つ越えると沢は直角に曲がる。ここは岩がくりぬかれたような形になつて二段の滝がかかっている。落差はたいしたことはないが、上段の滝が深い釜をもつうえホールドもないので越えられない。仕方なく左岸の浮石のいっぴいつまつたルンゼを利用して強引に捲く。ルンゼの最上端の草付も悪く、最後の大アルバイトとなる。

あとは別にどうということもなく大平温泉に着いて遡行を打ち切る。

(タイム)

大平・松川出合七・四〇―矢沢出合九・一五―明道沢出合一四・五〇―大平温泉一六・三〇

(記・西)